

各事故調とも、発電所内での事故対応の問題や、官邸の介入による弊害、住民避難に混乱があったことは共通で指摘しています。しかし、非常用冷却装置の操作などの事故対応、東電全面撤退問題、避難指示におけるSPEEDIの扱いについては見解に相違がみられます。

## ●各事故調の見解②(事故対応)●

	政府	国会	民間	東電
発電所内での事故対応	<p><b>[1～3号機全ての対応に不手際]</b></p> <p>「1号機の非常用復水器(IC)の作動状況の誤認や、2号機で代替冷却手段の準備を進めなかったこと、3号機の注水系を代替冷却手段を確保せず停止したことなどが問題点」</p>	<p><b>[シビアアクシデントへの備えが怠慢]</b></p> <p>「1号機の非常用復水器(IC)の手動停止は、配管漏えいの有無を確認するための合理的な判断。シビアアクシデントへの対応手順や必要資材の整備、訓練などを怠った組織的な問題」</p>	<p><b>[1号機ICの作動状況誤認が大きな問題]</b></p> <p>「1号機の非常用復水器(IC)が作動していると誤認し、原子炉への代替注水や格納容器のベントが速やかに行われなかった。この誤認が1号機の事態を決定的に悪化させた」</p>	<p><b>[その時々に応じて懸命に対応]</b></p> <p>「1号機の海水注水やベント操作をためらったことはない。停電中、非常用復水器(IC)の作動状況の把握は困難だった。3号機ではプラント状態を踏まえ高圧系から低圧系の注水へ切り替えた」</p>
官邸の介入	<p><b>[現場の混乱など弊害が大きかった]</b></p> <p>「首相の現場介入は現場を混乱させ、重要判断の機会を失う、あるいは判断を誤ることにもつながりかねず、弊害が大きい」</p>	<p><b>[混乱を招いた]</b></p> <p>「指揮命令系統や現場を混乱させた。東電内への対策統合本部の設置は、東電の当事者意識・自主性の喪失や、情報源の偏りによる判断のリスクが生じた可能性がある」</p>	<p><b>[一定の効果もあった]</b></p> <p>「撤退拒否と対策統合本部の設置、アクシデント・マネジメントは、一定の効果があった。ベント指示や注水関係の要請などは有効性がない、あるいは無用の混乱などを招いた」</p>	<p><b>[無用の混乱を助長させた]</b></p> <p>「現場実態からかけ離れた具体的な要求が官邸の政府首脳等から直接・間接になされ、緊急事態対応の中で無用の混乱を助長させた」</p>
東電全面撤退問題	<p><b>[断定はできない]</b></p> <p>「疑いはあるが断定できず、一部撤退を考えていた可能性も否定できない」</p>	<p><b>[官邸の誤解]</b></p> <p>「菅総理が全面撤退を阻止したという事実は認められない」</p>	<p><b>[一部撤退の根拠はない]</b></p> <p>「一部撤退とする東電の主張を支える十分な根拠があるとは言い難い。撤退阻止は菅首相の功績」</p>	<p><b>[意図したことはない]</b></p> <p>「事故対応に必要な人間が残ることは大前提。全面撤退を意図したことはない」</p>
住民避難	<p><b>[住民が振り回された]</b></p> <p>「避難先や避難方法の指示もなく、きめ細やかさに欠けた避難指示が次々と拡大。事故の全体状況を正確に把握できない状況ではあったが、住民が振り回される結果となった」</p>	<p><b>[住民に大きな負担を与えた]</b></p> <p>「着の身着のままの避難、複数回の避難、高線量地域への避難など、住民に大きな負担を与えた。また、自主避難は、国民の生命、身体の安全の確保という国家の責務の放棄」</p>	<p><b>[放射線被ばくを予防した点は評価]</b></p> <p>「事故発生後24時間以内に、避難区域を4回広げたことは、支援や情報が不十分な点もあったが、多くの住民の放射線被ばくを予防しえた点を評価できる」</p>	
SPEEDI※	<p><b>[活用の余地があった]</b></p> <p>「汚染の相対的な状況を手掛かりに、避難のタイミングや方向を適切に判断できる可能性はあった」</p>	<p><b>[活用は困難であった]</b></p> <p>「放射性物質の放出源情報なしでは、避難区域設定の根拠にできる正確性はなかった」</p>	<p><b>[一定の判断材料に]</b></p> <p>「予測結果が官邸トッピン上がっていれば避難指示の一定の判断材料となった可能性がある」</p>	

(以下より作成)

国立国会図書館 調査と情報 第756号「福島第一原発事故と4つの事故調査委員会」  
 日本電気協会発行「東京電力・福島第一原子力発電所 ここがポイント 事故調査報告書」  
 各事故調報告書

※SPEEDI:緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム

Copyright© 2012 日本原子力文化財団  
 東京電力(株)・福島第一原子力発電所事故サイト  
<http://www.jaero.or.jp/data/02topic/fukushima/>